

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を反映した事業所の独自の理念を作成している。	○  職員全員が地域密着型サービスの役割を完全に理解できるようにしていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎週の朝礼時、職員で理念を読み実践できるように取り組んでいる。	○  理念を理解したうえで日々のサービスに反映させていけるように職員一同で取り組みたい。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	利用者、家族が見やすい場所へ理念を提示している。入所時、利用者、家族に説明している。	○  地域に対して説明会や広報を配布する等し、理念を理解してもらえよう取りくみたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	入所者のプライバシーに配慮しながら、近隣の人たちに気軽に立ちよれるように働きかけている。施設イベントの際も近隣に案内を配布し、参加を呼びかけている。	○  町内会、民生委員、老人クラブ等にも事業所を理解してもらえよう働きかけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一同で自己評価に取り組んでいる。外部評価の結果は改善策を検討し、今後につなげるよう努めている。	○	外部評価のねらいや活用方法を全職員に周知しているが、まだ理解は完全とはいえず、今後も努力したい。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では評価の結果について、公表、説明している。その上で改善策についても意見交換を行うなどしている。	○	メンバーの意見を引きだせるよう努めてはいるが、まだ消極的な部分があるので、積極的に意見をだせるよう努めたい。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	自己評価、外部評価の結果を市町村に提出している。広報誌、パンフレット等は配布していない。	○	利用者の利便性のためにも、行政との連携を図り支援していきたい。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度について理解できるよう外部研修に職員に参加してもらっている。	○	利用者や家族にも情報提供や事業利用につなげる支援も行っていきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を発見した場合の対応方法等がわかるよう虐待防止マニュアルを作成している。	○	全職員が虐待防止に理解できるよう今後も取り組みたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、理念や方針は説明している。退居の際も説明を行い、退居先についても情報提供や相談をしている。	○	契約時、説明はしているが、疑問や意見を引き出す働きかけについては、まだまだ努力していかなくてはならない。
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は不満や意見を出しやすいように努めている。出された意見や苦情を速やかに対応できるよう取り組んでいる。利用者が外部に意見等を話せる機会が少ないと思う。	○	利用者が外部に意見を話せる機会を作れるよう取り組んで行きたい。
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶり、健康状態について家族に報告はしている。	○	職員の異動はあえて報告していなかったもので、今後、どうしていくか、検討してみたい。
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を明示している。入所時に家族に苦情受付窓口について周知している。	○	家族が意見が要望などを話しやすい雰囲気づくりに努め、家族からでた意見は日々のケアサービスに反映させるよう努めたい。
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法定事項について、一部職員の意見は聞いているが、全職員には至っていない。	○	全職員の意見を聞く機会を設け反映させていけるよう取り組みたい。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者との連携した関わりができるよう努めている。必要な時間帯に職員を確保するよう調整している。	○	利用者本位の暮らしを支援できる人員配置を考え今後も取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や新しい職員を配置するときは利用者に十分説明するよう努めている。職員の交代、異動が利用者にも与える影響、不安を理解するよう努めている。	○	職員の交代による悪影響を理解しながら異動や配置がえについて考慮したい。
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
17 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は研修を受講し、報告書を作成し、全職員に周知するよう取り組んでいる。研修受講はケアに支障がないよう配慮している。	○	年間の研修計画を作成し、質の向上にむけた育成の方針を示すよう取り組んでいきたい。
18 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との連携、交流の機会をもうけている。 (困難事例等)	○	交流、連携の機会を通じてサービスの向上、職員育成につなげられるよう努めていきたい。
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の意見を聞きながら、休憩時間、休憩場所の確保できるようにしたいが、なかなか上手くいっていない。	○	施設内にいると、何らかの形で、利用者に接することが多く、休憩を確保することが難しいので、場所等を含め今後検討したい。
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	健康診断の実施し、健康を保つため努めている。日々の努力や勤務状況を把握するよう努めている。	○	今後もやりがいや向上心が持てる職場環境づくりに取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用を前提とした話合いになりがちである。利用希望者、家族と直接話を聞く機会を設けている。	○  利用を前提に話をすすめるのではなく、思い、希望を把握するよう努めていきたい。
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用希望者、家族のニーズに対し必要なものを見極め、対応するよう努めている。対応できないものは検討している。	○  他のサービス機関に移行する場合も、連携を図れるよう取組んでいきたい。
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の視点に立った支援ができるよう取り組んでいる。利用者より家族優先のサービス開始になっている傾向がある。	○  利用者、家族双方の意向にそえるよう努めていきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者には得意分野で力を発揮してもらいながら、共同生活をしている。職員と利用者は喜怒哀楽を共感するよう努めている。	○  利用者の立場になりながら、一緒に喜怒哀楽を共にできるよう今後も努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換は大事なことなので家族の思いを把握し、利用者の様子を細めに伝え一緒に支えられるよう取組んでいきたい。	○	サービス利用の前から家族の介護の仕方を教えてもらう等、自然に施設にとけこめるよう努めていきたい。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族がホームへ来やすいよう努めている。利用者、家族、両方の思いを把握できるよう努めている。	○	家族の役割を奪わないよう配慮し、利用者、家族、職員のバランスのとれた良い関係ができるよう努めたい。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの場所に出かけれるよう支援している。電話や手紙や訪問などこれまで関わってきた人との交流を継続できるよう支援している。	○	利用者がこれまで関わってきた人やなじみの場所等、ある程度は把握しているが、毎日の生活やコミュニケーションの中から、たくさん情報を収集できるよう努めたい。
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の人間関係を把握している。孤立しないで、共に助けあい、支えあって暮らせるよう努めている。	○	よりよい人間関係づくりに努めたい。
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族の相談に応じる等、利用者や家族との関係を継続できるよう努めている。	○	サービス終了後も相談や支援に応じる姿勢を示していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の意向を把握するよう努めている。そのためにも、家族からの情報収集を行っている。	○ 今後も全職員が利用者の視点にたって思い、希望、意向を把握するよう努めたい。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴、ライフスタイルを把握するよう努めている。家族からの情報収集も行っている。	○ これまでの地域との関わりなども把握できるよう努めたい。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の生活リズムを把握できるよう日々努めている。1人ひとりのできること、わかることを把握している。	○ 今後も暮らし方や生活リズムを把握し、よいケアにつなげていきたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本位の個別、具体的なものとなるよう取り組んでいる。	○ 今後も全職員で話し合い、利用者の意見、家族の意見を取り入れ作成していきたい。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施期間を明示しているが、利用者の状態、家族の希望に変化がない場合はそのままになっている。	○ 変化がない場合も常に観察を行い、家族等から再アセスメントをとる等、見直すよう努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は全職員が共有できるようになっている。	○	計画にそって実践したか、その結果どうかなど介護計画の見直しに活かせるものにした。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者と家族との暮らしの断続性を支援するため、また地域からのニーズに応じ、新規事業の実施を行っている。	○	今後も新規事業や自主サービスについて開発、検討し支援していきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティアの存在は把握しているが、協力はまだ呼びかけてない。警察、消防らの協力が得られるよう努めている。	○	今後、いろいろな地域資源との協働できるよう積極的に取り組みたい。
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネジャーやサービス事業者と相談し、他のサービスを利用する支援はほとんど行っていない。	○	今後、全体で相談、検討していきたい。
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見制度の利用の必要な方の入所がまだない。	○	必要がある場合に備え、地域包括支援センターと連携できるよう努めたい。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受療状況を把握し、利用者、家族が希望する医療機関を受診できるよう努めている。いつでも医療機関に相談することができる。	○	今後も医療機関との連携を図り利用者が適切な医療を受けられるよう支援したい。
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医が指示や助言をしてくれる。	○	今後も断続していきたい。
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関と連携をとり、24時間いつでも相談できるようになっている。	○	今後も断続し、支援していきたい。
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	退院について家族も含め話しあうよう取りくんでいる。医療と情報交換し早期退院できるよう努めている。	○	今後も医療機関と連携を図り利用者が安心して過ごせるよう支援したい。
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応を明確にしている。家族、医療機関と話しあっている。	○	今後も断続していきたい。
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所内でできること、できないこと、困難なこと、不安なことについて話しあっている。	○	医療機関、家族と連携を図りながら支援できるよう努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	職員は移動による利用者がうけるダメージを理解し、情報提供を行うなどし、最小限とするよう努めている。	○	移動がないのが一番ですが、移動する場合は最小限のダメージですむよう支援していきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
47	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	羞恥心、プライバシーに配慮するよう努めている。個人情報保護法について理解し、訪問者や他者にもれないよう心がけている。	○	年長者と接するうえでの常識的な呼びかけを心がけているが、たまに慣れ合いが見られることがあるため注意していきたい。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の関心・嗜好を把握するよう努めている。利用者が自己決定できるよう努めている。	○	意思表示できない利用者も希望等把握できるよう努め、選択肢も提示する等工夫していきたい。
49	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の訴えを優先するよう努めている。利用者の言動を急かさないよう努めている。	○	利用者、優先に努めてはいるが、入浴後施設側の都合で決めてしまっていることもあるので検討したい。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
50	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望を優先している。(理・美容店)衣類の乱れもさりげなくサポートするよう努めている。	○	利用者の希望のお店に送迎している。今後も断続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞き献立を立てている。苦手な物は食べれるものに替えている。調理の準備はできる範囲で一緒に行うよう努めている。	○	食後、TVを見たり、歯みがきをしたりしているため職員が片付けてしまっているの、一緒に行うよう促し行っていきたい。
52	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好を把握するよう努めている。1人ひとりの状況にあわせ、楽しめるよう支援している。	○	たばこを吸う利用者が今までいなかったの、いる場合は安全確保、に努めていきたい。
53	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、誘導を行っている。自立にむけ、おむつの使用を検討している。羞恥心、プライバシーに配慮するよう努めている。	○	記録は排便だけで、排尿にかんしては把握しきれていない。自己報告によるものが多く、確認できない部分が多く、今後、検討していきたい。
54	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は施設で決めている。羞恥心、プライバシーには配慮している。	○	入浴日、時間帯は施設側の都合になってしまっていることが多いので、利用者の意向を取り入れるよう努めたい。
55	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	1人ひとりの睡眠のパターンを把握している。眠剤の服用は、本人、家族、医療機関と相談している。	○	眠剤に頼らず、生活リズムを整えるよう努めていきたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入所時、生活歴や希望を聞き入れ、入所後、コミュニケーションの中から情報を取り入れ、役割や楽しみを探すよう努めている。	○	得た情報をもとに、楽しい生活ができるよう努めていきたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者、家族と相談のうえ、金銭管理を行えるよう支援している。	○	金銭管理のできない利用者は、職員が支払い等行ってしまっているため、買い物時、自分で行ってもらうなど配慮していきたい。
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の身体にあわせて外出できるよう支援している。でかけたがらない利用者が多く、外出の機会が少ない。	○	楽しみや気分転換できるよう外にでる機会を増やしていきたい。
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者が行きたい場所を把握するよう努めたい。利用者の希望にそえるよう家族と相談しながら実現にむけ支援している。	○	できる限り希望にそよう努めているが、月に何度もの病院受診に関しては、家族と相談し、回数を調節せざるおえない時があるので、今後、検討していきたい。
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、電話は自由にかかけたり、だしたりできるよう支援している。自室で話できるよう、プライバシーに配慮している。	○	ほとんどが電話のため、手紙を書く機会をもうけられるようにしたい。
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設けていない。訪問時は声掛けし、ゆったりできるよう努めている。宿泊できるようにし、泊まる際は食事の提供も行っている。	○	なかなか面会にこられない家族もいるため、声掛けし、訪問しやすいよう努めたい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないようにしている。まだ一度もしたことがないが、やむを得ない場合は同意書を用意している。	○	今後も身体拘束の内容を職員全員が理解し、行わないという姿勢で支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に施錠せず利用者が自由に出入りできるようにしている。外出時は、付き添うようにしている。	○	無断外出時に備え、近隣の協力を得られるよう努めたい。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共、利用者の様子を把握できるようにしている。プライバシーや人権に触れる方法は行っていない。	○	把握できるようになっているが、様子がわかりにくい場所の工夫はしていないので検討したい。
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は保管や管理場所に留意している。入所している方の状態にあわせるよう努めている。	○	利用者の目に付かない保管にはしているが鍵はしていないため、今後検討したい。
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状況で想定される事故は検討している。事故発生時には報告書を作成している。ヒヤリハット報告書はない。	○	ヒヤリハット報告書は早急に作成し、全職員に周知したい！！
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルは作成され、いつでも見られるようになっている。一部職員が応急手当、救急救命の研修を受講している。	○	全職員が研修を受講できる体制をとり、定期的な訓練を行うよう取り組んでいきたい。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	適切な避難誘導が行えるよう定期的な訓練は行っている。災害発生時に備えての食・飲物、トイレ等の用意は不十分。	○	災害発生時の用意を十分にし、近隣住民の協力が得られるよう取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者1人ひとりに起こり得るリスクを職員全体で考え把握するよう努めている。その対応策も検討しているが、家族には説明が十分とはいえない。	○	リスク、対応策、状況変化について適宜に見直し、が即ち説明するよう取り組みたい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の持病、アレルギーは入所の際に確認し、把握できるようになっている。変化や異変は記録し、主治医に相談するよう努めている。	○	利用者の異変を見落とさないよう顔色や様子に注意するよう、今後も徹底していきたい。
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の内容を把握できるようになっている。飲み忘れや誤薬がないよう努めている。薬の変更については申し送り全職員に周知している。	○	服薬による状態変化は、医師に報告してはいるが、が側には訪問時に話すのみなので、こまめに連絡するよう努めたい。
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	1日の食事や排泄を理解している。便秘が何日か続くと下剤を処方してもらっている。	○	便秘の原因を探り、食材やメニューの工夫で下剤に安易に頼らないよう支援して行きたい。
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の手入れや必要性を職員は理解してはいるが、毎食後、1人ひとり個別にはおこなっておらず、声がけのみの支援となっている。	○	1人ひとりの習慣や意向を踏まえ、能力に応じた支援を行えるよう取りくんで行きたい。
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を記入し、把握している。献立や栄養状況等について、栄養士等の専門家から指導、助言を得られる体制とはなっていない。	○	献立や栄養状況について、もう少し見直し、改善していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	対応マニュアルを作成し、職員がいつでも見れるようになっている。朝礼時等、感染症についてよく話し合っている。	○	感染症に関する最新の情報を収集し、利用者、家族等にも周知していきたい。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所や調理用具等の清潔を保持するよう努めている。	○	1～2日に一度の買い物のため在庫はあまりないため在庫表等はなく、今後、検討していきたい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建ものに施設名がはいっているが小さく見づらい感じがする。	○	少し殺風景な気もするので、入りやすい雰囲気づくりに努めていきたい。
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日射しや照明、室内の明るさには配慮している。	○	難聴の利用者が多いため、声や、テレビの音量は高めになってしまいがち。今後、調整して、快適に過ごせるよう、努めていきたい。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士、団らんスペースでゆったり過ごせるよう工夫している。	○	1人で過ごせるよう工夫しているが、もう少し改善していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入所前愛用していたものを持ってきてもらうよう 働きかけている。利用者、職員、家族と相談し、 居心地のよい空間づくりに努めている。	○	家庭環境との差を感じさせないように今後も取 組んでいきたい。
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	事業所内の換気を定期的に行い、温、湿度計を設 置し、温・湿度管理を行っている。	○	利用者にあわせ、温度調節は行っているつもりだ が、ユニット全員が満足しているとは言えず全員 が万速してくれるよう努めていきたい。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	安全に生活できるよう要所に手すりを設置してい る。転倒につながる原因がないか注意している。 必要に応じて車イスを用意している。	○	身体状況の変化に応じて、環境改善の工夫をでき る体制を強化していきたい。
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	必要な場合には、個々に合わせた表示をつ けるようにしている。	○	利用者の混乱を招くような環境の要因に対して、 改善につなげられるよう今後も努めていきたい。
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	玄関先にプランターに、利用者と職員で季節の植 物を育てている。利用者は自室で好きな花を育 てている。	○	敷地内では庭もなく、コンクリートのため花を植 えたりできない環境ですが、その中で、できる限 り支援している。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)